



障害者のパワーは会社の戦力。 蓄積したノウハウは サービスに還元しています。

障害を持っているからこそできることもある

宮園自動車は、今から26年前、業界で最初に身体障害者のドライバーを採用したバイオニアです。以来、110名に応募が増え、今では約1100名いるドライバーのうち障害のある人は30名。そのうち20名が、中野営業所に勤務しています。「うちは、障害者が頑張ってるからなあ(笑)」。そんな冗談をいいながら取材に応じる竹村さんと杉浦さんは、いずれも自営業からの転職組。手に職を持つプライドは、道具がハンドルになっても変わりません。

ドライバーとしての実績もさることながら、宮園身障二種免協会という社内の会の役員も引き受け、頑張っています。「障害を持つと、自分の枠の中に閉じこもってしまいがちなんです。それを取り除ければと思っ

てね。年に1回の勉強会と研修を兼ねた懇親旅行。みんなで旅行するのもひとつの方法なんですよ」。介護タクシーについても、率先して接客マニュアルを作りました。「身障者として何ができるかという新しい試みです」。車椅子の扱い方や配車時の留意点、簡単な手話ガイドなど、実践に即した内容が評判を呼び、最近是他社からもマニュアルを分けて欲しいという要望が増えているとのこと。宮園自動車自体、お年寄りや施設への送迎を専門にする福祉部門を持ち、現在はタクシー部門でもヘルパー

事故を未然に防ぐ配慮は構内にも

資格の取得を推進中です。彼らの意見はそこでも大いに役立ちます。身障二種免協会は自主的な組織ですが、会社にも貢献し応援を受けながら活動しているのです。



▼白手袋で出発！気持ちを引き締め、ハンドルを握る。



▲障害者に配慮した介護タクシーには、心の配慮も大切。

した。「それと、優先的に自家用車通勤は認めてくれていますよ。駐車スペースも営業車に乗り換えやすい場所に確保してあります」。障害がある人は、運転中よりむしろ降りたあとに危険が多いのです。洗車で濡れた構内で転んだり、車を探す最中に他の車と接触したり、という事故を未然に防ぐためのちょっとした配慮が、安心して働ける職場を作っています。



▲1日の安全は始業点検から。車の管理は各自で責任を持って行います。

お客様に不安を与えない気遣いもテクニック

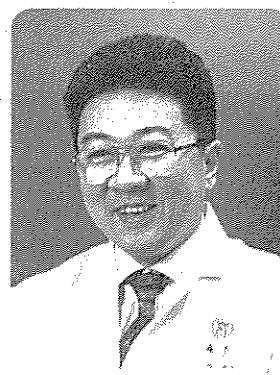
接客業としてお客様に不安を与えることはないのでしょうか、というぶしつけな質問には笑って答えが返ってきました。「義足は見えないでしょう。義手も白手袋しちゃえばわかりません。お釣りは、不自由な左手を使わずに、お客様の方に向き直って右手で渡す。かえって丁寧に思われるくらいです。フロアシフトは少し不便ですが、オートマチック車ならほとんど問題ありませんよ」。こちらが気を遣えばお客様にも気づかれずに仕事はできる、そのためには、勉強会では接客

についての情報や体験も交換し、よりよい対応を心がけています。中野営業所の森下課長も「そういう意味での不安はないですね」と、断言します。逆に事故防止の面では健常者以上に意識も高く、信頼しているとのこと。初代からの身体障害者のドライバーの実績とノウハウを残していきたい、という気持ちに支えられた仕事ぶりは、会社にも欠かせない戦力として、しっかりとそのポジションを築いていました。

職場の声 ここがポイント

プラス思考でいけば 会社にも社員にも良い影響があります

宮園自動車株式会社 中野営業所 課長
森下 英夫(もりした ひでお)さん



最初に身体障害者のドライバーを引き受けた時には、社内でも賛否はありました。しかし、それを契機に会社も福祉の勉強をして、今では養護施設などの送迎を行う福祉部門もひとつの事業となっています。介護保険法を契機に介護タクシーの展開も進め、彼らにも意見を求めています。身体障害者のドライバーの営業実績は、全社員の平均

より上なんです。車に乗れば健常者と同じ土俵の上に立てるんですね。むしろ集中力があるし、熱心に勉強もしています。東京無線タクシーのサービスリーダーとして新人乗務員を指導している人もいます。会社にも社員にもいい影響を与えています。定着率もいいですね。定年までうちの働いてくださる方がいることは嬉しい限りです。



Profile

竹村 哲明(たけむら てつあき)さん
1946年生まれ 54歳
障害は右足下腿切断(4級)
17歳の時に事故で右足を複雑骨折。ドライバーになる前は洋服のテーラーを経営。多忙の中でストレスを感じ転職を決意。二種免許を取得して1990年に宮園自動車へ入社。3年前に再度の事故に見舞われ右足を切断し、現在は義足を装着しての運転。宮園身障二種免協会4代目会長。



Profile

杉浦 義弘(すぎうら よしひろ)さん
1946年生まれ 54歳
障害は左上腕二分の一欠損(3級)
前職は電気工事士。電力会社の下請け会社を経営していたが、44歳の時、高圧線接触事故により左腕ひじ下から切断、義手を装着。入院中に宮園自動車の身障者ドライバー第1号である白井氏と会い、タクシー業での再起を考え二種免許を取得。宮園身障二種免協会では会計を担当。

現在、営業用には改造車が10台。左右どちらの足でもアクセルが使えるようにペダルが切り替えられる「両ペダル」オートマチック車です。パワーステアリングのハンドルと油圧式のジャッキアップも採用しています。当初は、この車の改造に苦労したそうですが、現在ではメーカーの協力も得られ、コストも抑えられるようになりました。改造車以外は、待遇も勤務体系も他の人と同じです。「1乗務の走行量は365キロまでは可能なんです。乗務時間でいうと大抵は1時間前後オーバーしますね」。決して差別はしないかわりに特別扱いもしない。しかし、まわりの人の理解があることは大きいといいます。社内の施設では階段の手すりや洋式トイレの設置といった改善が行われま